

林原美術館

NEWS

Vol.

11

平成18年4月1日

「美術と工芸における近代」

(財)林原美術館館長 熊倉功夫

平成十八年度は「近代の絵画と工芸」をテーマとする企画展からはじまります。ここでいう近代とは、明治維新(二八六八年)から大正時代の終り(二九二六年)までを指して使っています。

日本の近代は、二口でいいますと、積極的に西洋文明を取り入れ、独自の日本文化を形成した時代といえます。しかし遅れていた日本が進んだ西洋を一方的に取り入れたというわけではありません。明治維新以前に、日本は西洋に肩を並べる高いレベルの文明をつくりあげていました。たとえば西洋の学校制度にくらべても負けない寺小屋や郷学の制度がありました。そのため日本人の識字率は西洋より高かったのです。あるいは郵便制度が導入される以前に日本には飛脚と為替の制度がよく行きわたっていました。

つまり日本の高度な技術と制度があればこそ西洋文明を受け入れることが可能でした。

一方、日本の開国によって西洋も日本から大きな影響を受けます。それは美術工芸の世界に顕著です。日本の漆工や陶芸は技術的にもデザイン的にも西洋を圧倒しました。また

浮世絵の大胆な構図と色彩も人びとを魅了し、二九世紀後半に、ジャポニズムといわれる日本ブームがヨーロッパにおこったことは周知のとおりです。

では日本の美術工芸の側では西洋と接触してどのような変化が生まれたのでしょうか。

西洋から歓迎された工芸家たちは、それにあぐらをかいて独自の創造性を発揮できなかったように思います。それにくらべると明治の画家たちは西洋から評価されず、孤独でしたから、必死に自己変革に取り組みました。ただ、彼らは日本画と洋画に分かれますので、その努力のあとは別々に論じられてきました。最近出版された古田亮氏の『狩野芳崖・高橋由二』は日本画と洋画を一体として明治の絵画を論じています。同書に教えられたのですが、今回の企画展にも展示しております菱田春草は、「日本画も西洋画も帰する処は同一の処を狙つてゐる」といつています。

この「帰する処」とは何か。それを探ることが、近代の絵画を、

ひいては近代の日本文化を解明することにつながるでしょう。



「幻化」屏風(左隻) 富田溪仙

企画展

「近代の絵画と工芸」

4月8日(土)～5月28日(日)

明治から大正にかけての絵画・陶磁・漆芸・金工を展示します。絵画では菱田春草や下村観山を中心とした美術院系、円山四条派の京都画壇、そして田能村直入や富岡鉄斎の文人画を、陶磁・漆芸・金工は海野勝珉をはじめとして同時代の作品を展示します。本展を通して、明治から大正にかけての文化の変動期を生きた人々の営みをご覧頂ければと思います。



伊万里焼 八角大壺 波瀾鶴雲染付

企画展

「江戸のデザイン」

8月12日(土)～10月1日(日)

古いものの模様やデザインは現在でも新しく感じたり、今も生き続けているものが多くあります。



目斗熨段入り格子

江戸時代の作品に使われている格子・丸文・吉祥文・草花文・紋散らしなどを展示し、デザインの豊かさを紹介します。

企画展

「備前池田家伝来 狂言装束」

平成19年1月6日(土)～2月11日(日)

当館には能装束同様、多くの備前池田家伝来の狂言装束を所蔵しています。今回は初めての狂言装束展を開催します。



襦袢文様石畳に破れに字の卍の藤

「絵画に見る行列」

11月18日(土)～12月24日(日)

拝む対象、権力の象徴としての「行列」は古くから行われてきました。ここでは、江戸時代の絵画に描かれた大名行列・祭祀行列などのさまざまな行列に焦点を当てます。備前池田家に関する資料を中心に、現在の岡山と比較しながら当時の様子を紹介します。



部分巻繪物賦滿菖

「岡山ゆかりの文化財」

平成19年2月17日(土)～3月25日(日)

当館の所在地である岡山県は、豊かな風土に恵まれ、古代から現代まで様々な文化を育んできました。



作義勝弥阿正 皿子菓図花菊

もちろん当館で所蔵している作品の中にも、地元岡山ゆかりのものが少なくありません。館藏品の中から地元岡山にゆかりのある作品にスポットを当てた展示を行います。岡山で生まれた文化を、本展を通して再発見していただければと思います。

企画展

「東アジアのやきもの」

6月3日(土)～7月30日(日)

我々の生活に身近な陶磁器は、中国を中心に



鍍文花貼彩三

育まれ、朝鮮半島・日本へと渡って、今日の姿に至っています。本展では収蔵品の中から、東アジアの陶磁器の流れという視点で、まず中国陶磁の流れを概観し、朝鮮、日本の陶磁器を紹介したいと思

特別展

林原国際芸術祭、希望の星

— 文字を描く —

10月7日(土)～11月12日(日)

日本女子大学家政学部児童学科助教 西村陽平

林原国際芸術祭、希望の星は、障害をもちながらも、芸術の分野で世界的な活躍をしている人たちの活動を通して、世界の人々の心を結び、喜びを共有する活動として始められました。第三回目として、今回は「文字を描く」というテーマで作品を紹介いたします。

ふつう「文字をかく」という場合、「かく」という漢字は、「書く」を使います。しかし、ここでは「描く」という漢字を使っています。今回の展覧会は、文字をテーマにしていますが、伝統的な「書」だけではなく、文字の形そのものを造形としてとらえた美術的な表現など幅広く考えています。

今回出品を予定している「グループ文字屋」は、奈良の福祉施設「たんぽぽの家」のアートスタジオを拠点として活動しています。一九九二年から書家の南明容氏を指導者として、身体的、知的に障害をもった人たちが、二期一字の精神で魂のこもった力強い作品を制作しています。

長野県真田町にある通所施設「風の工房」でも、注目す



西沢美枝作

べき作品が生まれています。「がんばらない」という書は、「文字屋」の書とは対極にあるような脱力した、書きたいことを心のおもむくまま書いているようで、これもまた現代を感じさせるものです。

平成17年度 下半期 イベント報告

昨年度林原美術館では様々なイベントを企画し、皆様にご参加いただきました。ここでは下半期に行いましたイベントについて報告します。

お茶会

今回、企画展「館蔵 茶の湯道具と池田家の名品」の行事の二環として、茶室「竹明庵」においてお茶会を開きました。当館館長の熊倉功夫が亭主となりました。晴天にも恵まれ、平成17年11月19日(土)・20日(日)の両日で合わせて160名の方々にご参加いただきました。この度屋根を修理した「竹明庵」も息を吹き返しました。初めてお茶会にいらっしゃる方も多く、楽しい一時となりました。



茶室「竹明庵」

第三十八回 林原美術館 美術講座

当館の熊倉館長が平成17年11月12日(土)岡山県立図書館にて企画展「館蔵 茶の湯道具と池田家の名品」に関連して「茶の湯」をテーマに池田家の名品にまつわる話をしました。その後、当館にて展示品を見て感慨を新たにされた参加者から、感動した旨を聞くことができました。参加者は200人を超え、大盛況であったことを付け加えておきます。次回講座をお楽しみに・・・。



銘切り

平成17年11月26日(土)、小中学生の親子16名が参加し、大野義光刀匠のご指導のもと、文鎮に好きな言葉を切ってもらいました。銘を切るのは難しかったですが、初めての銘切りを楽しんでいただき、自作の銘入りの文鎮を持ち帰っていただきました。

小刀製作

平成17年11月23日(水)・27日(日)の2日間、大野義光刀匠と弟子の高野行光刀匠のご指導で、10名の方が小刀の製作に取り組みました。慣れない作業に最初は戸惑いながらも、最後には焼き入れまでこなし立派な小刀が出来上がりました。



小刀製作風景

第三十九回 林原美術館美術講座

演題「近代の美術と風俗」

近代とは明治・大正時代。日本が西洋の近代文明を取り入れて、伝統文化との折衷をはかった時代です。美術も工芸もその嵐のなかで新しい展開をみせ、衣食住の風俗の面でも大変化を日本人は経験しました。その事態に迫ります。

日時 平成18年5月6日(土) 13時30分～15時
講師 熊倉功夫(当館館長)
定員 120名(要予約)
会場 岡山県立図書館 2F 多目的ホール
参加費 友の会会員 300円 一般 500円

第六回 美術館周遊の旅

「高知 『功名が辻』の舞台と美術館を巡る旅」

今回の美術館周遊の旅では、NHK大河ドラマ「功名が辻」にちなみ、高知を訪れます。高知県立文学館を会場として開催される特別展「山内一豊とその妻」を見学。この特別展には土佐藩山内家伝来の資料のほか、当館所蔵の資料も出品されます。また高知城には天守のほか本丸御殿や追手門等の建造物が現存し、往時を偲ぶことができます。さらに高知県立美術館にて、食玩メーカー海洋堂の制作した食玩の世界を楽しむ特別展「海洋堂の軌跡」を見学します。



高知城

日時 平成18年7月17日(月・祝)
定員 40名(要予約)
参加費 友の会会員 9,000円
一般 9,500円

第四回 ワークショップ「文字を描く」

特別展、林原国際芸術祭、希望の星の関連事業として、左記の通りワークショップを開催致します。特別展に作品を出品している「たんぽぽの家」で、書の指導をされている南容明氏を講師に迎え、文字を描く体験を試みていただきたいと思っております。

日時 平成18年10月21日(土) 13時～14時30分
会場 林原美術館ロビー
対象 障害をもつ方、その介助者、施設担当者、関心のある一般の方
定員 15名
参加費 無料
※ご自分の作品はお持ち帰り頂けます。

友の会竹明庵茶会

昨秋大好評いただきました茶会を、今年は左記の通り開催致します。熊倉功夫館長が亭主をつとめ、お水屋を数田宗政先生が担当致します。

日時 平成18年11月18日(土)・19日(日)
場所 林原美術館 茶室 竹明庵
参加費 1,000円

※参加は友の会会員に限定させていただきます。

特別講演会

平成19年1月～2月に開催される企画展「備前池田家伝来 狂言装束」にちなみ、能狂言史研究の第一人者である関西大学文学部教授関屋俊彦氏をお招きします。

日時 平成19年1月20日(土) 13時30分
※なお詳細は後日御案内いたします。

「友の会」募集のご案内

◎会員の種類・年会費

個人会員	1年	3,000円(新規)
		2,700円(入会継続)
法人会員	3年	7,000円
	1年	30,000円(新規)
	3年	27,000円(入会継続)
	70,000円	

◎有効期限

・1年会員 平成18年4月1日～平成19年3月31日
・3年会員 平成18年4月1日～平成21年3月31日

◎会員の特典

- ①入館料無料または割引料金
「企画展」ご本人と同伴者1名様 無料
「特別展」ご本人と同伴者1名様 割引料金
- ②展覧会・イベント情報の送付
展覧会ごとに案内状の送付
「林原美術館ニュース」(年2回発行)の送付
その他イベントのお知らせの送付
- ③イベント参加
イベントに会員割引料金で優先的にご案内
友の会会員限定の特別行事あり
- ④スタンプラリー
本年度の全展覧会(7回)にお越しの方にはオリジナルグッズをプレゼント

ご入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。

編集後記

春を迎え、「林原美術館ニュース」第11号をお届けいたします。今年度も様々な展覧会とともに、お茶会などの催しを企画しております。美術・工芸品を「見て」楽しむだけでなく、日本文化を「体験」していただければ幸いです。皆様のお越しをお待ち申し上げております。(M)

〒700-0823 岡山市丸の内二一七二五

財団法人 林原美術館

TEL 086-233-1733

http://www.hayashibara-museumofart.jp
E-mail: hmart@hayashibara-museumofart.jp